

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 9 日（月）18：30～20：28

場 所：カルチャープラザ「Eki」

出席者：27 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）
- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：栗山赤十字病院の受け付けの人が何回も患者の名前を呼ぶので、マイクをつけてほしい。患者が返事をしないこともあるし、夏は窓を開けていると、飛行機の音で聞こえないこともある。

町長：現在の設備でマイクの設置が可能かどうかも含め、栗山赤十字病院に伝えたい。新しい病院はしっかりした設備で作る。

町民：過疎対策事業債借入の 32 億 9000 万円はいつまでに返済するのか。また、1 年間にいくら返済するのか。

町長：償還期間は 30 年間で、償還費は年間約 5000 万円。通常の償還期間は 12 年だが、大規模な事業は 1 年間の負担が増えるので、30 年で認められている。

町民：昔の栗山赤十字病院には精神科があり、体育館のような広さの土地があった。そこに移転するの

か。

町長：精神科があった時と同様のスペースで作る。人工透析病棟は築 15 年と比較的新しいので、そのまま活用したい。他の会場では、整形外科は月曜、火曜、水曜、金曜の週 4 日診療しているがいずれも午前中のみの診療なので午後からも診療してもらいたい、眼科・泌尿器科・循環器科は週 1 日しか来ないので週 2 日は診療してほしい、若い方からは小児科を増やしてほしい、総合窓口から診察室までが遠いので改築後は利便性を考えてほしい、町内の個人病院とも協力してほしい、病院経営を重視したほうがいいという意見が出ている。皆さんの意見をすべて実現できるとは限らないが、議論の場には載せていきたい。

町民：白内障の手術後、目に痛みがあり、通いの先生に相談したが取り合ってくれなかった。その後、顔が腫れてきたため、点滴などで対応してもらえないか聞いたが、対応できませんと言われた。また、腸のポリープ手術のため札幌の病院に通っている町民に聞いたが、栗山赤十字病院では手術できないと言われたという。通いの先生同士が連携を取れていないし、人数だけ揃えても内容が伴わなければ意味がない。診療体制を改善してほしい。

町長：他の会場でも医療体制の充実について話は出ている。現在の栗山赤十字病院は常勤の医師が 6 人、非常勤が 1 人、出張医が 14 人の体制。普通は紹介状が必要な手術も、北海道大学との強いパイプがあるので対処してもらえることもある。いただいた意見は栗山赤十字病院に伝える。

町民：現在の場所での改築が費用面では有効だが、旧栗山小学校のグラウンドを提案したい。通院の利便性、災害への対応、プールの水を生活用水への転用などが可能になると思う。院内に小児科・歯医者を作らなくても近くにあり、仕事や買い物が徒歩圏内で足りる。車を使わないことを考えると、一カ所で診療ができる有効な敷地だと思う。

町長：費用面では現地建て替えを考えているが、この機会にいろいろな可能性を検討したい。移転の際の解体費を借入金の対象にできないか国に要望しているが、制度上困難との回答を得ている。駅前の敷地、角田近辺、栗山町農産物検査場近辺など、移転候補地についてさまざまな意見をいただいている。

町民：近隣の市町と比較してもほとんどの診療科は揃っているが、口腔外科がない。口内の手術は口腔外科で行われるが、空知に口腔外科は少ないので、新設してほしい。

町長：ここで回答はできないが、検討させていただく。

町民：脳神経外科の設置はしないのか。脳関係の疾患が増加しているので、緊急搬送されたときにすぐに対応してもらおうほうがいい。

町長：口腔外科と同じく、栗山赤十字病院には無い課なので、検討の必要がある。総合病院としてすべての診療科を網羅できればいいが、医師の確保などの問題がある。2 次医療圏の岩見沢、3 次医療圏の札幌と協力し、北海道全体の地域医療を構築する必要がある。いただいた意見をもとに議論していきたい。

町民：口腔外科は介護に関わることなので、科の創設のほか、介護をする人への指導もお願いしたい。脳神経外科は緊急搬送された方への対処に必要だと思う。新しい病院は今の場所でも支障はないが、規模が大きくなるので、入りやすい駐車場などを工夫しなければならない。新型コロナウイルスの関係もあり、病院に通うのが大変なので、通いやすい交通網を整備してもらいたい。JR やバスがあるので、今はどの病院も駅のそばにある。町民の署名が必要なら協力したい。

町長：駅周辺への移転も検討の場に上げたい。

町民：20 年前に自動車事故に遭い、栗山赤十字病院のレントゲンでは骨折していないと言われたが、札幌の病院で診てもらったと骨折していた。看護師の態度や礼儀作法もなっていない。MRI を導入するらしいが、導入しても何も変わらないのではないかな。

町長：医師や看護師の対応については、別の機会に栗山赤十字病院に伝えたい。MRI は現段階では導入する計画になっている。

町民：将来的な集客を考え、患者の送迎をするのはどうか。長沼に送迎を行う病院がある。町が主導して実施してほしい。町のホームページに栗山赤十字病院のリンクが貼ってあるので、YouTube で医師や診療科の紹介をすれば宣伝になるのではないかな。由仁では商店街の宣伝などを YouTube で出して人気が出ている。歯医者などは 1、2 時間待つこともあるので、電話やメールで診療を予約するようにはできないかな。

町長：長沼の個人病院が送迎を行うのは聞いている。町民の 80% は栗山赤十字病院に通っているが、10% は長沼の病院に通っている。交通の利便性を検討するため参考にしたい。情報発信や予約システムの方法も議論していく。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：広報紙 11 月号にバリアフリー住宅・太陽光発電システム・家の解体費などに補助金が出ると書いてあった。家を新築するため建設課に話を聞きに行ったが、よく分からないと言われ、その隣の方や年配の方も何の話か分からず、該当する広報のページを探しているうちに、1 時間以上も待たされた。結果的に回答は得られなかったうえ、職員には縦割り行政だから仕方ないと言われた。行政の対応として、自分に関する仕事が分かっているのはどうなのか。直していただきたい。

町長：これからは横の連携を大切にして、今回のようなことが起きないように、しっかり対応していきたい。

町民：栗山高校と介護福祉学校が連携して取り組む事業などはないのか。

教育長：栗山高校と介護福祉学校の協働は非常に大切なこと。介護福祉学校を単体で運営してだけでなく、福祉専攻のコースを作るなど、栗山高校や小中学校も含んだ流れを作りたい。貴重なご意見として検討していく。

町民：介護福祉学校の卒業生と在學生に、どのような意見があるのか聞いたほうがいい。卒業生の一人が、現場に出て初めて分かったことがあり、何を身につけたかったのか分からなかったと話していた。現場の状態を多くの学生に分かってもらうことが必要。いろいろなことを学ぶ機会を設けることで、介護学生だけでなく、それぞれの家庭や子どもたちにも介護の大切さが伝わると思う。

教育長：本来の介護福祉学校としての運用に加えて、町民をはじめ多くの方に介護のことを知ってもらいたい。地域の方々や福祉施設と一緒に、主体性を持って取り組んでいきたい。体験入学の時に OB の介護福祉士に参加していただき、現場の声を聴いてもらうことも必要。介護福祉学校全体で、学生に対し、介護についてしっかりと伝えていく。

町民：議会だよりに掲載されていた「事業資源活用スタートアップ支援事業」とその進捗について詳しく教えてほしい。

ブランド推進課長：スタートアップ支援事業は、新型コロナウイルスの影響で倒産した企業の資産を新

たな事業に活用する事業所に対し、町が支援するもの。現在、関係書類を確認し、対象の事業所を精査している。

町民：有効活用というが、実際はどのように利用するのか。予算は可決されたのか。

ブランド推進課長：対象となる事業所が資産を有効活用できるかを確認する。機械や建物は損耗しているため早いタイミングで取得することが大事。事業内容をよく確認して対象を決定したい。

町民：対象となる事業所はまだ決まっていないのか。

ブランド推進課長：現在そのための書類を確認している。

町民：スタートアップ支援事業について、議会のライブ配信を見たが、議員の中にも疑問が残ったと思う。補助の上限額は決まっていると思うが、町の発展や、新型コロナウイルスにより倒産した企業の事業継承や雇用確保など、未来につながる目的はあるのか。今後要件付けをするなら、先の見通しが必要だし、ただ補助をするだけでは視点がずれていると思う。

ブランド推進課長：ブランドの継承は大事だと思っているが、現実には規模の大きいブランドの引き継ぎは難しい。施設の有効活用・事業展開の可能性の上で、どこかの事業所に引き継いでほしいとの思いで制度を設けた。今後も新型コロナウイルスの影響で経営が難しくなる企業があるかもしれない、特定の企業を念頭に制定したわけではない。

町民：返答が多少抽象的に聞こえる。数年後にこういう事業をやっていききたい、という事業所は最低限、要件に該当するのか。個人的には、制度の対象に該当すると思う。

ブランド推進課長：今後の事業展開についても、検討の対象にする。事業の取得後に転売することがないように、事業展開の見通しを立てることが大前提となる。

町民：いい事業だとは思いますが、効果が何年後に出るかは分からない。今日明日にも困っている町民がいるので、そういった方々を優先して救ってほしい。

町長：新型コロナウイルス感染症への対策には60の事業がある。光回線の整備や子どもたちに一人一台端末を整備するほか、飲食店への支援、経済対策、スタートアップ支援事業など、将来に向けた支援も行う。議会からもすぐにお金を必要としている人に提供してはどうかという意見が出たが、先を見据えた事業支援のためにも、なるべくバランスを取りながら配分をしていきたい。今後、国から追加の助成金があれば、効果的な支援を行いたい。

町民：議会だよりの債権放棄に関する説明について、死亡・失踪・破産以外に対象はあるのか。広報紙には水道の停止や給料差し押さえに関する説明が良く出ているが、実例はあるのか。実際に支払わない人には、いつまで催促をするのか。債権放棄が65万円といえば大きな金額だと思う。

町長：水道料金に関しては、徴収に主眼を置き、居所不明者を対象にしている。

町民：核のごみの最終処分場の文献調査が始まるが、道内にある町として、対岸の問題ではないと思う。文献調査に応募する考えはあるのか。

町長：今の時点で文献調査に応募する考えはない。断層帯が走っているので、条件に合致しないし、町の歴史や展望を考えると、自然や環境を大切にしなければならないので、応募は考えていない。

町民：今後も検討する考えはないのか。

町長：私が町長をやっている間は、進んで応募することはない。

町民：そのような考えであるなら安心した。

20 : 28 終了